

浄泉寺通信

第5号
 年4回発行
 浄土真宗本願寺派
 吉見布教所浄泉寺
 埼玉県比企郡吉見町
 久保田40-1
 発行責任者 福井学誠

ではないか。
 息子を誇りに
 思っています」
 これは臓器移
 植を受ける方

のいのちが長らえられるという意味

今年6月、富山大病院に低酸素脳

だけでなく、個を超えたもつとも

で初めて6歳未満の子どもへの脳死

と大きないのちの流れを想起させ、

判定が行われました。脳死判定を受

そうした点も賢治の詩と共通してい

けて臓器提供という重い決断をされ

ます。

た男児のご両親が発表されたコメン

わたしたちの日々は、個々のいの

トをニュースで聞き、わたしも感銘

ちの縁のなかにあります。「おかけ

を受けました。そして、ふと宮沢賢

さま」と言われるその縁とは別に、

治の詩の冒頭の二節が思い返されま

涅槃経に「山川草木悉有仏性」あら

した。

ゆるものに仏性が宿るとされ、「山

けふのうちこ

とほくへいってしまふ

わたくしのいもつとよ

みぞれがふって

おもてはへんにあかるいのだ

(あめゆじゅとちてげんじや)

(『永訣の朝』)

賢治26歳、妹トシ24歳での別れを

詠んだものです。男児のご両親のコ

メントには「息子は私たちのもとから

遠くへ旅立ちました」とありまし

た。宮沢賢治も「とほくへいってし

まふ」と記していますが、ただ遠く

へ行くのではないと語る点も賢治の

詩と共通しています。「大変悲しい

ことではありましたが大きい希望を

残してくれました。息子が誰かの体

の一部となって長く生きてくれるの

個のいのちと、個を超えたいのちについて考える

鳥のほろほろと鳴く声きけば 父か

とぞおもふ母かとぞおもふ」と行基

菩薩が言ったように、古来わたした

ちの先祖はあらゆるいのちとの一体

感のなかで生活を営んできました。

眼前に男児の姿はななくとも、男児の

ご両親にとつては「生き続けること」

それが唯一のすくいであったように、

宮沢賢治にとつては妹トシが兜率天

に生まれてくれることが唯一のすく

いでした。兜率天とは弥勒如来の浄

土です。浄土とはすなわち、個を超

えたいのちです。

一方で宮沢賢治は、ひとりの人間

への個人的な執着を、「修羅意識」

として一貫して否定しました。修羅

とは地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、

天とされる六道のひとつで、鬭争的

な仏教の守護神、阿修羅がその主と

されます。

いかりのいがさまた青さ

四月の気層のひかりの底を

睡し はぎしりゆききする

おれはひとりの修羅なのだ

(『春と修羅』)

わたし自身は修羅であります。し

かし修羅を修羅のままに置かないは

たらきがある、親鸞聖人はそのはた

らきを本願力廻向、他力廻向とおっ

しゃいました。宮沢賢治も個のい

のちへの執着を離れ、個を超えたい

のちへの帰依を自らの詩的言語で語

り続けた方でした。

翻って、わたしたちの周りにあふ

れているのは、個のいのちへの執着

をとおる情報ばかりです。執着は世

の常、人の常ですが、修羅を修羅の

ままで終わらせかねないものです。

墓地へ参りますと「〇〇家之墓」と

書かれた墓碑が多くなり、浄土真宗

独特の「俱会一処」「南無阿弥陀仏

と書かれた墓碑は見かけなくなりました。個を超えたいのちが墓碑から

消え、個のいのちばかりに目が向い

ているように思えます。

道元禅師が「生より死にうつると

ころろろは、これあやまりなり」

と言ひ、親鸞聖人が「光触かぶるも

のはみな 有無を離るとのべたまふ

と指し示された道は、死を悲しみで

終わらせない世界、涅槃によって無

限のいのちに還る世界、慈悲のはた

らきとなって生き続ける世界です。

死を悲しみとさせないのは、個の対

極にある永遠性と普遍性への帰依が

あるからです。

「老いを楽しく」「生涯現役」と

いった言葉で老いは華々しく彩られ

てはいますが、孤独死が年間

2万人、自殺者は年間3万人

を超す社会は異常です。働い

ているときには働きたいを、

そして定年後は生きがいを見目目に

探してきたわたしたちは、なぜ生き

るのか、なぜ死んではいけないのか

その根本への答えを見出せずにいる

ような気がしてなりません。

脳死判定を受けて臓器提供をされ

たご両親は、深い悲しみの中で誠に

尊い決断をされました。心から敬意

を表しますとともに、個を超えたい

のちに深々と頭を下げられたであろ

うそのお姿を思うと、人間中心、自

分中心でしか見ることのできないわ

たしは、言葉にならない思いで胸が

いっぱいになるのです。(住職)

わくわく子ども会を 開催

4月8日「わくわく子ども会」を開催しました。この子ども会は疎遠になりがちな大人同士を結び、ゲームやテレビの無いひと時を子どもたちと過ごすこと、そして何より仏様に手を合わせる尊さに大人も子どもも触れてもらいたいとの願いで開催しているもので、今回が2回目です。この日は子ども18名、父兄12名、計30名の皆様にお越しいただきました。みんなでいちご大福作りを体験し、川崎市

からお招きした腹話術のゴロちゃんのだジャシに大笑い。続くジャンケン大会はみんなも真剣。左の写真を見てください！次回の子ども会は8月5日を予定しています。



浄泉寺コーラス指導 手塚久美子さん

浄泉寺コーラスを指導いただいている手塚久美子さんは声楽家として、オペラに芝居、朗読と舞台芸術の場で活躍され、茨城音楽専門学校の講師として若手の育成にも尽力されています。昨

年京都・西本願寺で行われた大遠忌合唱大会へ参加した折にはわたしたちをご指導、そして同行くださいました。7月14日の孟蘭盆会では本願寺仏教讃歌や夏のメドレーなど、手塚さんの歌声と共に、ご参拝の方も一緒に歌を楽しんでいただく時間を少しばかりもつけております。西本願寺では毎年11月に合唱大会が開催され、全国から多くの方が、一緒に仏教讃歌の合唱を練習して、西本願寺へお参りしましょう！

東武東上線東松山駅前のカフェを

お借りして、毎週月曜日に開催し

てきた「はじめての歎異抄講座」

は終了し、7月から「子ども素読

塾」が始まりました。皆さんは子

どもの言葉の乱れが気になりませ

んか。素読とは意味の理解に重点

を置かない、文章をリズムで体の

なかに入れる方法です。生活の乱

れは言葉の乱れから来ます。漢籍

や古文、現代文の素読を通じて、

言葉のリズムを学び、生活のリズ

ムにつなげていってもらいたいと

の思いで始めました。対象は幼稚

園から小学校低学年ですが、お気

軽にお越しください。東松山駅か

ら徒歩5分の所にあるカフェです。

7月2日(月) 17時(毎週開催)

子ども素読塾(東武東上線東松

山駅前・まちカフェ)

7月14日(土) 11時

浄泉寺孟蘭盆会(東京中央区・

築地本願寺)

7月20日(金) 19時

はじめての歎異抄講座(第9回)

フレサよしみ(埼玉県吉見町)

7月21日(土) 18時30分

新月ヨガナイト

フレサよしみ(吉見町)

8月5日(日) 9時30分

わくわく子ども会(浄泉寺)

8月17日(金) 19時

はじめての歎異抄講座(第10回)

フレサよしみ(吉見町)

8月18日(土) 18時30分

新月ヨガナイト

フレサよしみ(吉見町)

9月21日(金) 19時

はじめての歎異抄講座(第11回)

フレサよしみ(吉見町)

10月6日(土) 14時

青木新門氏講演会(作家、米アカデミー賞映画『おくりびと』原作者)

フレサよしみ(吉見町)

■浄泉寺は開設から一年がたちました。皆さまへの感謝を込めて、作家の青木新門氏をお招きして記念講演会を開催いたします。入場無料、定員100名となっております。お気軽に、お誘いあわせのうえお越しください。また、坊守

は第二子を妊娠しており、9月に出産予定です。毎週火曜に吉見町で、第2・第4木曜に川越市で、ヨガサークルを主宰しています。それぞれ8月をもって産休に入り、来年1月再開までお休みいたします。詳しくは、お寺まで。TEL 04

93-54-8803